



発行日：令和7年7月

編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

◆第72回山部会、川部会合同WGを開催しました！

豊田市にて第72回山部会、川部会合同WGを開催しました。今回のWGは、テーマ別の活動進捗状況の報告や愛知県河川課、林務課の方からカーボンニュートラルについて話題提供をしていただきました。

日時：令和7年6月27日（金） 13：30～17：00

場所：豊田市旭交流館

参加者：33名 ※事務局を含む



◆主な会議内容

1. テーマ別の活動進捗状況の報告



テーマごとに活動進捗状況について、担当者より報告いただき、意見交換を行いました。

■流域圏担い手づくり事例集（豊田市矢作川研究所 洲崎 主任研究員）

- ・流域圏担い手づくり事例集VI-1の完成を報告し、取り組みの概要を説明しました。多くの方に手に取って読んで欲しいため、みなさまに積極的に配布していただくことを推奨しました。
- ・今年度後半に、2冊目となる流域圏担い手づくり事例集VI-2を発行予定であることを報告しました。

■山村ミーティング（NPO 法人山里文化研究所 丹羽副代表）

- ・昨年度に「森と人をつなぐ」を刊行するなどの活動を行ってきましたが、地域間を繋げ、皆で幸せに笑いながら暮らせる地域を作り、森と人の問題を解決するために山村ミーティングとしての活動を改めて議論しました。

■森づくりガイドライン（山部会 蔵治 座長）

- ・矢作川流域の市と村の間伐・皆伐面積の実績データを整理し、変化をグラフで示しました。近年の間伐面積は、ほぼ横ばいでしたが、今年は恵那市と豊田市が減少する結果となりました。
- ・海と森の繋がりについても議論された不知火海・球磨川流域圏学会の創立20周年記念シンポジウムについて紹介しました。
- ・長良川河口堰やシカによる森林植生と土砂災害への影響のシンポジウムについて情報共有しました。

■木づかいガイドライン（森と子ども未来会議 鈴木代表）

- ・あいち森と緑づくり委員会の委員を務めており、委員会の活動内容を情報共有しました。

2. カーボンニュートラルの話題提供



■矢作川・豊川カーボンニュートラルプロジェクト（愛知県建設局河川課）

- ・愛知県河川課から、矢作川・豊川カーボンニュートラルプロジェクトについて話題提供しました。
- ・愛知県の温室効果ガス排出量は全国最多クラスであり、矢作川・豊川カーボンニュートラル推進協議会を設立し、水に関わる関係団体、流域市町村、官民の連携を強化するため、経済団体も参画することになりました。
- ・「再生可能エネルギー」「エネルギーの省力化」「CO2吸収量の維持・拡大」「新技術・新システムの導入」の4つの視点で取り組んでいくことを説明しました。
- ・木瀬ダムの小水力発電の設置と、発電した電力を活用した地域づくり、菱地遊水地の県内初の遊水地空間を活用した太陽光発電の取り組みについて情報共有しました。
- ・水循環基本計画において2050年カーボンニュートラル等に向けた地球温暖化対策の推進が閣議決定されました。

■森林クレジット（愛知県建設局林務課）

- ・愛知県林務課から、森林クレジットについて話題提供しました。
- ・Jクレジット制度の対象となっている愛知県の森林クレジットについて、活用意義や市場ニーズについて説明しました。
- ・2023年からJクレジット認証量が急増しており、近隣地域における森林クレジットの取り組みについて情報共有しました。
- ・豊田森林組合、大垣共立銀行、(株)バイウィルによって、Jクレジットを活用したカーボンニュートラルに関する協定が締結されました。

3. その他



- ・神谷氏と小堀氏が、多摩川流域懇談会の設立経緯や活動を紹介し、今後開催される流域セミナーについて情報共有しました。
- ・豊田市森林課が、学生を対象とした林業体感・見学ツアーについて情報共有しました。

◆話し合いでの主な意見 (・意見 ▶回答)

1. テーマ別の活動進捗状況の報告

(1) 流域圏担い手づくり事例集

- 昨年の多摩川流域懇談会との交流を経て、流域ごとに抱えている課題が異なっていることを痛感した。流域ごとの大きな違いとして、流域単位の人口密度が挙げられる。(近藤)
- 流域総合水管理に努めるといことは、想像を絶する覚悟と努力が必要であり、国民全員が認識する必要がある。(近藤)

(2) 山村ミーティング

- 個人で林業を始めたが、組合から仕事が供給されず、若手人材の育成が難しい。地元住民が、外部から就業した人との関係構築に保守的になっている地域も存在する。(小田)
 - ▶ 外部からやってきた人に対して寛容である地域と、保守的な地域が存在している。人間としての尊厳を尊重し、山仕事に従事する誇りを持ち、地域から感謝される仕事をするには、どうすれば良いか考え、大きな枠組みを作る必要がある。(丹羽)
 - ▶ 林業従事者は不足しており、労働力として個人事業主は必要である。しかし、素人から始めると安全面に不安があるため、3年程度経験し、勉強することが必要である。(小島)
- 流域圏内のフェアトレードが重要であり、川だけの問題ではなく、山、里などの第1次産業を繋ぎ、工業や金融経済を回していく状態が生まれてくる。(山本)

(3) 森づくりガイドライン

- 豊田市の間伐面積の減少理由は、週休2日制の導入や就業福祉制度の導入である。間伐事業の費用の多くが人件費であり、安全に配慮すると、人件費が増加してしまう。(小山)
- 恵那市では、昔は切り捨て間伐であったが、最近は搬出間伐となり、間伐した木を搬出するのに費用がかかってしまう。また、コスト削減のため広範囲をまとめて間伐すれば良いが、森林環境贈与税の間伐は、点在している場所が対象なので、間伐面積の減少に繋がっている。(小島)

2. カーボンニュートラルについて話題提供

- 建設工事におけるCO₂の削減量は、自動車約500台分のCO₂排出量であり、効果としては大きくないのではないかと。(戸田)
 - ▶ CO₂の排出量としては少ないが、県の管理するダムカーボンニュートラル化、停電時も発電可能であるなどの評価も含め、管理施設として事業が成り立っている。(川瀬)
- 岡崎市は、三菱が森林整備のお金を出し、カーボンクレジットを買い取る契約だが、愛知県は、森林整備までのお金は出さない契約となっている。(小山)
- 岐阜県で行っているGクレジットの取り組みは、県の森林環境税で整備した森林を対象としており、Jクレジットは、国の補助事業で整備した森林を対象としている。(小島)
- 愛知県が全国的にもCO₂の排出量が多いが、県内でCO₂を削減するためには、森林に限らず、海などあらゆるものを使っていく必要がある。(小田)



今後の予定

次回の山部会WG・FWは、令和7年8月1日(金)～2日(土)平谷村にて開催します。



◆お問合せ◆

矢作川流域圏懇談会 事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西 1-6 国土交通省 豊橋河川事務所 流域治水課
TEL 0532(48)8107

*矢作川に関する情報は、国土交通省 豊橋河川事務所 流域治水課 (cbr-toyo-chousa1@mlit.go.jp) までお送りください。

